

【注意事項】

R20TS0779JS0100

Rev.1.00

2021.12.01 号

RX スマート・コンフィグレータ,
FreeRTOS および Azure RTOS,
e2 studio(カスタムボード選択時のビルドエラーについて)

概要

FreeRTOS および Azure RTOS プロジェクトで RX スマート・コンフィグレータ (以降、SC)を使用する場合の注意事項を連絡します。

1. 「カスタムユーザボード」を選択してコード生成する場合の注意事項

表 1 該当する不具合 早見表

e2 studio version	2021-01, 2021-04 2021-07, 2021-10		2021-04 2021-07, 2021-10
RTOS package version	FreeRTOS (with IoT libraries) v202012.00-rx-1.0.0	FreeRTOS (kernel only) 10.4.3-rx-1.0.1	Azure RTOS v6.1.9_rel-rx-1.0.0
Devices	RX65N, RX671, RX72N		RX130, RX65N, RX651, RX66T, RX671, RX72N
Create a new RTOS project with "Custom User Board"	X	不具合なし	不具合なし
Import existing RTOS project with "Custom User Board"	X	不具合なし	X

X : 本記号は該当する不具合を示します。

1. 「カスタムユーザボード」設定でコード生成する場合の注意事項

1.1 該当製品

FreeRTOS 使用時 : e² studio 2021-01 ~ e² studio 2021-10.

Azure RTOS 使用時 : e² studio 2021-04 ~ e² studio 2021-10.

1.2 該当デバイス

FreeRTOS with software package v202012.00-rx-1.0.0 : RX65N, RX671, RX72N

Azure RTOS with software package v6.1.9_rel-rx-1.0.0 : RX130, RX65N, RX651, RX66T, RX671, RX72N

1.3 内容

以下のいずれがのケースに該当する場合、プロジェクトのビルド時にエラーが発生します。

ケース 1) 「カスタムユーザボード」設定で新規 RTOS プロジェクトを作成する場合 :

e² studio の表示言語を日本語にした際の注意事項

- 1) 「FreeRTOS (with IoT libraries)」のバージョン「v202012.00-rx-1.0.0」を選択
- 2) 「Target board」に「Custom」を選択
- 3) 「コードの生成」をクリック

[注意事項]

コード生成を行うと、ビルド実行時「F0520005: Could not open source file」もしくは「No such file or directory」というエラーが発生します。コード生成でインクルードパスが生成されないこと、またソースコードが正しく生成されず欠落が生じることが原因です。

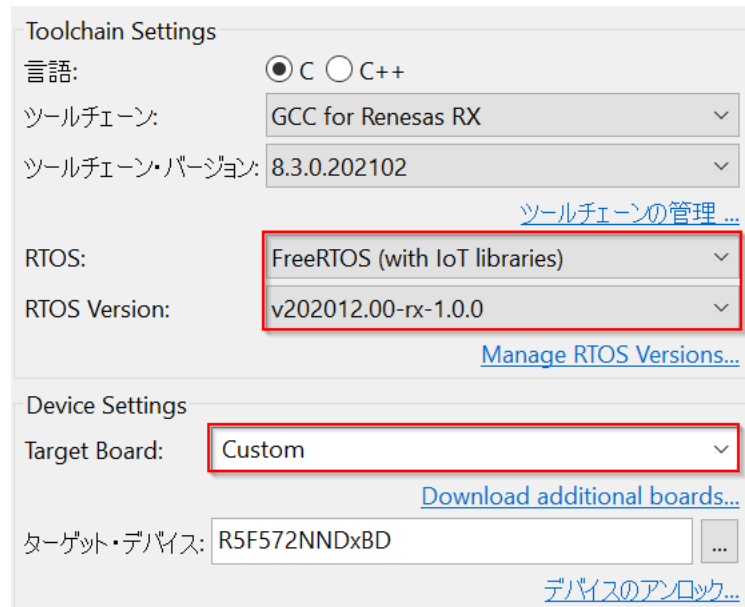


図 1 「Custom」ボード設定 FreeRTOS 新規プロジェクト作成画面（日本語表示）

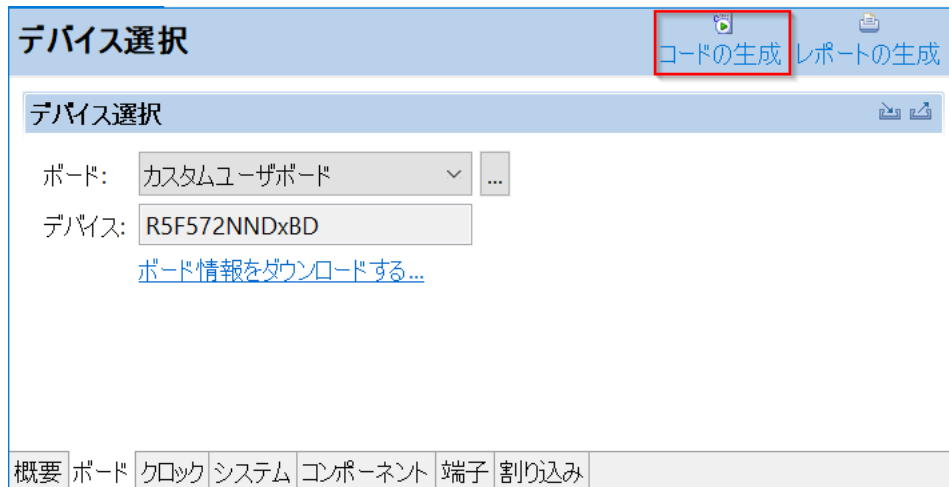


図 2 SC のコード生成画面

ケース 2) 「カスタムユーザボード」設定の既存 RTOS プロジェクトをインポートした場合：

以下条件で既存 RTOS プロジェクトをインポートした際の注意事項

- 表示言語が英語の e² studio で作成され、ボードに「Custom User Board」を選択したプロジェクトを、表示言語が日本語の e² studio でインポート
 - 表示言語が日本語の e² studio で作成され、ボードに「カスタムユーザボード」を選択したプロジェクトを、表示言語が英語の e² studio でインポート
- 1) 既存のプロジェクトをインポート
 - 2) SC エディタを開く（.scfg ファイルをダブルクリック）
 - 3) 「コードの生成」をクリック

[注意事項]

コード生成を行うと、ビルド実行時「F0520005: Could not open source file」もしくは「No such file or directory」というエラーが発生します。コード生成でインクルードパスが生成されないこと、またソースコードが正しく生成されず欠落が生じることが原因です。

[備考]

インポートするプロジェクトを生成した e² studio の言語設定が、日本語あるいは英語であるかを確認する方法を以下に示します。

- インポートしたプロジェクトの.scfg ファイルを任意のテキストエディタで開く
- 「id="board"」で検索し、「Value」を確認
 - o 「value="カスタムユーザボード"」の場合、日本語の e² studio で作成
 - o 「value=" Custom User Board "」の場合、英語の e² studio で作成

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<smc>
  <general version="2.0.0.0">
    <configuration active="true" id="com.renesas.smc.toolchain.gccrx.configuration.release">
      <platform id="R5F572NNDxBD"/>
      <option id="board" value="カスタムユーザボード"/>
    </general>
  </smc>

```

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<smc>
  <general version="2.0.0.0">
    <configuration active="true" id="com.renesas.smc.toolchain.gccrx.configuration.release">
      <platform id="R5F565NEHxLC"/>
      <option id="board" value="Custom User Board"/>
    </general>
  </smc>

```

図 3 .scfg ファイル内ボード情報

1.4 回避策

プロジェクト生成後、もしくはプロジェクトのインポート後に、以下の操作を行うことで回避できます。

- e² studio で SC エディタを開いていた場合は閉じる
- 任意のテキストエディタでプロジェクトフォルダの.scfg ファイルを開く
- <option id="board" value="..."/>行を削除し、変更を保存する
- e² studio で SC エディタを起動（.scfg ファイルをダブルクリック）

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<smc>
  <general version="2.0.0.0">
    <configuration active="true" id="com.renesas.smc.toolchain.gccrx.configuration.rele.
    <platform id="R5F565NEHxLC"/>
    <del><option id="board" value="Custom User Board"/></del>
  </general>
</smc>

```

図 4 .scfg ファイルからボード情報を削除

1.5 恒久対策

次期バージョン（e² studio 2022-01）で改修予定です。（2022 年 1 月リリース予定）

以上

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	Dec.01.21	-	新規発行

本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したものです。誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。

ニュース本文中の URL を予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 (豊洲フォレシア)

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。